

7 議事概要

① 公共工事の競争入札案件

(委員) No.1の浄化槽撤去工事については、再公告をしてようやく1社だけが応札してきたということですね。

(労働局) 長崎に限らず県外も工事業者を確保することが難しく、他の労働局においても1社応札の状況があることを確認している。特に、沖縄はリゾート開発による建築ラッシュのため、現場代理人クラスの人材が流れているという情報も得ている。

(委員) 現在もまだ工事中なのか。

(労働局) 工事は終了した。当初予定していた工事期間を年度内まで延ばしたが、西海出張所が要望していた年内に工事完了することができた。

(委員長) 公共工事の競争入札案件については、適正と判断する。

② 物品・役務等の競争入札案件

(委員) No.2の官用車交換契約とNo.4の官用車購入契約については、どちらも同じ業者が落札しているが、同じ車種になるのか。

(労働局) どちらも同じ車種になる。

(委員) 五島安定所の契約分が安かった理由というのは。

(労働局) まず、自賠責保険は五島が離島地区になるので諫早より安価となる。また、五島については有料道路がないのでETC取付が不要であり、取付費用の負担なし。また、カーナビゲーションシステムも諫早と五島では五島が安価であった。

納車費用は五島の方が高かったが、先ほどの比較等結果として五島安定所の契約金額が安価となった。

(委員) 予定価格が約30万円の違いがあるが何か理由があるのか。

(労働局) 前回、平成30年5月25日契約の対馬監督署の官用車交換契約における予定価格について、2者応札したが、うち1者は予定価格を超えた応札であり、離島のため高く応札してきたと思われるが、値引き額を考慮して予定価格を高く設定したため落札率が75.6パーセントとなった。

(委員) 総合評価方式というのは、価格点はどれくらいの割合になるのか。満点のうち、価格点がどれくらいなのかお伺いしたい。

(労働局) 最終的には、環境性能に対する得点を入札価格で除したものが総合評価点となる。

(委員) 同じ車種で総合評価点が異なる違いが分からない。

(労働局) 五島安定所の自動車については、重量1.5トンまでの車種が応札可能な仕様書となっており、諫早監督署は重量1トン未満の車種仕様となっているので、燃費目標値に違いが出たため総合評価点も変わってくる。

(委員) 今回のような、最低入札価格ではなく総合評価方式の場合、どういう方式でやるという細かく採点方法まで公告に記されているのか。

(労働局) 公告してある。入札の前に業者がどの車種で応札するか資料を提出していただくことになっている。

(委員) ただ安価というだけではなく、1円当たりの燃費価格の効率も必要になってくるのですね。

(委員長) 物品・役務等の競争入札案件については、適正と判断する。